

新型コロナウイルス感染症から高齢者を守るための施設へのメッセージ

宮城県新型コロナウイルス感染症対策介護ワーキンググループ

高齢者施設で新型コロナウイルス感染症の集団発生が多く発生しています。新型コロナワクチンの高い感染予防効果が欧米各国から報告されており、宮城県でも今年より高齢者へのワクチン接種が始まっています。ワクチンが十分行き届くまではこれまでのような感染予防策を行っていく必要がありますが、施設ごとの感染予防策だけでは限界があり、以下の3つのポイントをうまく活用して地域全体で高齢者を守りたいと考えています。

施設におけるスクリーニング検査（仙台市：抗原定量、仙台市以外：抗原定性）による感染者の早期に検出する

- 様々なサービスはPCR検査による確定検査後に停止を検討することが基本です。
- 簡便に検査を実施して施設への入り込みをいち早く検知します。
- 陽性の場合には、確定検査の結果が出るまで自宅待機とする等の対応を取るとともに、陽性者の行動歴を聞き取って、他に滞在・利用した施設の有無や接触した職員を把握するなど、施設内で感染防止の取り組みについて再確認を行います。
- 仙台市の施設で陽性の際には、仙台市役所から連絡があり、具体的な対応についても市からお知らせします。確定検査で陽性であった場合には、仙台市保健所と相談してその他の利用者や職員へのPCR検査に協力して下さい。
- 仙台市以外の施設で陽性の際には、宮城県長寿社会政策課に連絡します。陽性が判断に迷う場合、検査キットが手元があれば再度検査を行なってください。有症者に対するスクリーニング検査で陽性であった場合には、PCR検査による確定検査を進めると共に、必要に応じて嘱託医師と相談の上で施設の接触者に対するスクリーニング検査を考慮してください。

クラスター発生施設や発生事業者に対する介護職員の直接・間接応援システムを積極的に利用する

- 高齢者施設クラスターの特徴として陽性高齢者が重症化しやすいことに加えて、介護職員が陽性や濃厚接触者となったことを受けて、施設で勤務可能な職員数の急激な低下があります。
- 宮城県では関係団体等によって発生施設に対する介護職員の応援派遣体制が整えられています。発生時の業務量増加や感染予防策を徹底するためにも積極的に利用を考慮してください（相談先：宮城県長寿社会政策課）

利用者や従事者での新型コロナウイルス感染症の発生状況を踏まえた介護サービスの連携やクラスター対策

- 陽性者の発生施設では介護サービスが制限されます。サービスの代替えには発生状況を施設が主体となって、関係機関（特にケアマネジャー）と積極的に共有する必要があります（施設の閉じた対応ではなく地域での対応）
- また、陽性者の他施設での利用歴を迅速に共有することで、当該施設での健康観察の強化やスクリーニング検査の実施が可能となり（いわゆるクラスター対策）、他施設での感染拡大を未然に防ぐことに繋がりますので、感染者の発生については必ずケアマネジャーを通じて情報共有を図るようお願いします。

引き続きご協力のほどよろしく申し上げます。